

教科・種目名 国語（書写）

採択基準	基本観点	発行者名	
		2 東書	11 学図
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>全学年用の一冊で構成し、教材を「練習」「生活に広げよう」「資料」の3つに分け、系統的・発展的な学習ができるようにしている。</p> <p>国語の古典や名文を数多く教材化していることに加え、旧暦の月名や二十四節気なども小筆の文字で掲載し、日本語の美しさを味わえるようにしている。</p> <p>書き込み欄を増やし、毛筆で確認した学習内容を、硬筆に広げられるようにしている。</p>	<p>全学年用の一冊で構成している。全体を7章で構成し、学習のねらいを理解しやすいタイトルで表している。各ページに課題が明確に示されており、目的意識をもって系統的に学習できる。</p> <p>国語科との関連を図り、現代文や古典の一部、詩歌など生徒に親しめるものを選び、興味を持って意欲的に取り組めるようにしている。</p>
	別表1		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な内容の定着を図るための配慮	<p>筆の上下運動や「トン・スー・ピタッ」など、リズムや筆脈を意識して書くように取り上げている。</p> <p>基礎・基本となる教材を中心に構成し、目標や振り返りを明示することで、生徒が見通しをもって学習できるようにしている。</p>	<p>導入教材で必要に応じて半紙原寸大の教材提示がされており、文字の大きさや太さ、字配り等をイメージしやすく、効果的に学習できるよう配慮している。</p> <p>基礎・基本的な解説ページは朱墨と薄墨を用いて視覚的に分かりやすく解説し、学習のねらいが理解できるようにしている。</p>
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<p>各単元に「調べよう」「確かめよう」「広げよう」を設け、その効果について考えるようにしている。また、「振り返ろう」など自己評価ができる項目を設けている。</p>	<p>学習指導の要点として、「ここを気をつけよう」「振り返って」「確かめよう」を設け、学習の確認ができるようにしている。</p>
	(3) 生徒が自主的に学習に取り組むことができる配慮	<p>学習した書写力を生かした活用場面として、「年賀状」や「のし袋」「絵はがき」「電子メール」を取り扱っている。また、身の回りの文字の工夫を「看板」や「石碑」などを通して考えさせるようにしている。</p>	<p>学習した書写力を生かした活用場面として、「はがき」や「エアメール」「伝票」を取り扱っている。また、身の回りの文字の工夫を「看板」や「石碑」「ちらし」などを通して考え、紹介し合うようにしている。</p>
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<p>「発展」として中国や日本の優れた先人の書を紹介している。また、用具の発達と文字の変化や「しょしゃのたね」として手書き文字と印刷文字の違いなどを紹介している。</p>	<p>「書写の窓」として中国や日本の優れた先人の書を紹介し、高等学校芸術教科書道科目での古典臨書学習への取り組みを促している。また、篆刻への挑戦を促している。</p>
	別表2		
	別表3		
	別表4		
	別表5		

発行者名		
15 三省堂	17 教出	38 光村
<p>全学年用の一冊で構成している。教材タイトルに学習のねらいを明示し、学習の流れが見開きで見渡せる構成になっている。</p> <p>国語科との関連を図り、古典の書や詩歌を適宜紹介するとともに、毛筆用具の製法なども取り上げ、伝統的な文字文化の現代へのつながりに触れることができるようにしている。</p>	<p>全学年用の一冊で構成している。</p> <p>各学年の硬筆教材は、国語との関連を緊密にし、文学作品や古典を取り上げている。</p> <p>「いろは歌」を題材に、漢字指導の関連から平仮名の基になった漢字の字源について取り上げている。</p>	<p>全学年用の一冊で構成している。「基礎編」「学習編」「資料編」の3部構成とし、「学習編」を軸に相互に参照しながら活用することで、生徒の個別の実態や学校や地域の特性に合わせた指導ができるよう配慮している。</p> <p>古典文学や短歌・俳句を書いて味わう「季節のしおり」、書き初めなどの体験を通し、伝統的な言語文化への理解を深められるようにしている。</p>
<p>教材の冒頭に「考えよう・話し合おう」というステップを設け、主体的に学習に取り組めるようにしている。</p> <p>「学習の見通しをもつ」「学習する」「振り返る」「学習を生かして主体的に書く」という学習の流れを繰り返すことで、書写の学び方が身に付くようにしている。</p>	<p>「行書、もんがまえ、二・三画目の書き方」など、二色筆による筆使いの解説を、視覚的に理解しやすく示している。</p> <p>各教材において、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の流れを繰り返すことで、書写の学び方が身に付くようにしている。</p>	<p>筆使いを写真で示したり、筆脈をなぞり書きするなどの活動を取り入れたりすることで、書写要素を視覚的・直感的に理解できるようにしている。</p> <p>「目標」「学習の窓」「毛筆で書こう」「学習したことを生かして書こう」などの学習指示にマークを付し、学習の展開を分かりやすくしている。</p>
<p>各単元に「考えよう・話し合おう」「振り返ろう」を設け、日常生活や手書き文字について話し合ったり、その他の言語活動に活用できるようにしている。</p>	<p>各単元において「目標」「考えよう」「生かそう」を設け、その効果について考えるようにしている。また、「振り返ろう」など、自己評価ができる項目を設けている。</p>	<p>各単元に「目標」「学習の窓」と明記し、日常生活での文字文化への関心が高められるよう配慮している。また、「学習を振り返る」など自己評価ができる項目を設けている。</p>
<p>学習した書写力を生かした活用場面として、「はがき」や「手紙」を取り扱っている。また、身の回りの文字の工夫を「看板」や「石碑」「ちらし」などを通して考え、紹介し合うようにしている。</p>	<p>学習した書写力を生かした活用場面として、「年賀状」や「手紙」「伝票」「のし袋」などを取り扱っている。また、身の回りの文字の工夫を「掲示物」や「橋銘」「横断幕」などを通して考えさせている。</p>	<p>学習した書写力を生かした活用場面として、「一筆箋」や「のし袋」「願書」「エアメール」などを取り扱っている。また、身の回りの文字の工夫を「看板」や「リーフレット」などを通して考え、話し合うようにしている。</p>
<p>「発展」として中国や日本の優れた先人の書を紹介している。また、「自分の文字」の意義とさまざまなフォントについて紹介している。</p>	<p>「発展」として中国や日本の優れた先人の書を紹介している。また、「暮らしの文字を支える人々」と「日本建築と書」を紹介している。</p>	<p>「発展」として中国や日本の優れた先人の書を紹介している。また、「コラム」としてデザインと文字文化について手書きの意義を紹介している。</p>

教科・種目名 国語（書写）

採択基準	基本観点	発行者名	
		2 東書	11 学図
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(5) 他の教科等との関連  別表6	総合的な学習の時間や特別活動で生かされる書式や効果的な表現について紹介している。	総合的な学習の時間や特別活動で生かされる書式や効果的な表現について紹介している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫  別表7	<p>手本の縮小例に、書き方のポイントを示し解説している。</p> <p>運筆のわかる朱墨手本を示し、書き初め手本を4例と半紙原寸大手本を3例挙げている。</p> <p>使用する筆記用具の表示が10種類である。</p>	<p>手本の縮小例に、書き方のポイントを示し解説している。</p> <p>運筆のわかる朱墨手本やかご書きで示し、書き初め手本を6例と半紙原寸大手本を8例挙げている。</p> <p>使用する筆記用具の表示が8種類である。</p>

発行者名		
15 三省堂	17 教出	38 光村
総合的な学習の時間や特別活動で生かされる書式や効果的な表現について紹介している。	総合的な学習の時間や特別活動で生かされる書式や効果的な表現について紹介している。	総合的な学習の時間や特別活動で生かされる書式や効果的な表現について紹介している。
<p>手本の縮小例に、書き方のポイントを示し解説している。</p> <p>運筆のわかる朱墨手本を示し、書き初め手本を8例と半紙原寸大手本を1例挙げている。</p>	<p>手本の縮小例に、書き方のポイントを示し解説している。</p> <p>運筆のわかる朱墨手本を示し、書き初め手本を6例と半紙原寸大手本を1例挙げている。</p> <p>使用する筆記用具の表示が8種類であり、筆圧を3段階で表示している。</p>	<p>手本の縮小例に、書き方のポイントを示し解説している。</p> <p>運筆のわかる朱墨手本を示し、書き初め手本を6例挙げている。</p> <p>筆圧を3段階で表示している。</p>